

30D-am03

臍帯血移植後の Human Herpesvirus 6 脳炎発症例における foscarnet 使用実態
○犬飼 陽子¹, 伊藤 忠明², 内田 ゆみ子², 石綿 一哉³, 前澤 佳代子¹,
寺島 朝子¹, 谷口 修一³, 林 昌洋², 木津 純子¹(¹慶應大薬, ²虎の門病院薬,
³虎の門病院血液内科)

【目的】臍帯血移植の合併症の一つに Human Herpesvirus 6(HHV-6)脳炎が挙げられ、中枢神経症状を呈し、予後不良な疾患といわれている。虎の門病院(当院)では移植後に HHV-6 脳炎を発症した全例に、後天性免疫不全症候群患者におけるサイトメガロウイルス網膜炎治療剤である foscarnet(FCV)を投与している。今回、HHV-6 脳炎発症例における FCV の使用実態について検討した。

【方法】2006年1月～2010年6月に当院で臍帯血移植が施行された症例の診療録より、患者背景、HHV-6 脳炎発症群の髄液中 HHV-6 ウイルス量、臨床症状、意識障害、FCV 投与量、血清クレアチニン、電解質を調査し、意識障害は Japan Coma Scale(JCS)に基づき評価した。(虎の門病院の倫理委員会の承認を得て実施した)。

【結果及び考察】臍帯血移植 304 例中 32 例(男/女: 19/13)で HHV-6 脳炎を発症し、中央値は 54 歳、発症日 20.5 日、ウイルス量 15000 copies/mL であった。14 例に痙攣、16 例に短期記憶障害が認められた。発症時の JCS は、JCSⅢ(重症)7 例、JCSⅡ6 例、JCSⅠ(軽症)19 例であった。FCV は腎機能に応じ 10～180 mg/kg/day の投与量で、16 例は発症前より予防的に投与、16 例は発症後に投与された。ウイルス量を 2 回以上測定できた 23 例において、全例で減少が認められ、意識障害は発症時 JCSⅢで 1 例、Ⅱ4 例、Ⅰ9 例が清明となったが、20 例は死亡した(ただし、いずれも直接の死因は脳炎以外であった)。発症前と発症後の投与では発症時 JCS、発症後のウイルス量、臨床症状に有意差は認められなかった。FCV 投与後 6 例に血清クレアチニンの上昇、3 例に Na 値、17 例に K 値、13 例に Ca 値の低下が認められたが、FCV の投与量を調整しながらいずれも投与継続が可能であった。HHV-6 脳炎の予防及び治療における FCV 投与については、今後更なる検討が必要である。